

# 高齢者等の避難に関する制度検討における論点

【課題①】避難行動要支援者名簿、個別計画、地区防災計画それぞれの連携のあり方について整理するべきではないか

【課題②】地区防災計画の策定促進に向けて、計画の作成主体である地区住民等を人材やノウハウ面で支援する仕組みについて検討する必要があるのではないか。

## 【課題①】

避難行動要支援者名簿、個別計画、地区防災計画それぞれの連携のあり方について整理するべきではないか

- ➡ ソフト対策間での連携は必要。しかし、その担い手は地域住民。
- 十分なソフトで人をつなぎ、災害に備えた住まい方を後押しする最低限のハード整備も必要。

### 取組み事例：介護事業者による避難機能付き共同住宅（真備町箭田）

介護事業等を展開する事業者が中心となり、被災した賃貸住宅を避難機能付き共同住宅として再整備。

要配慮者の住まい、地域の交流拠点、災害時の一時避難場所 等のハード機能に併せ、要配慮者と地域住民が日常的に助け合えるソフト機能も導入する。モデル整備・運用・広報することで、真備町内や全国の水害リスクが高い地域への普及展開を目指している。



2階のベランダまでスロープにリフォーム。  
近所の逃げ遅れた方へ安全のおすそ分け



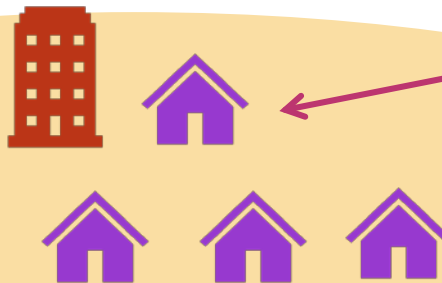
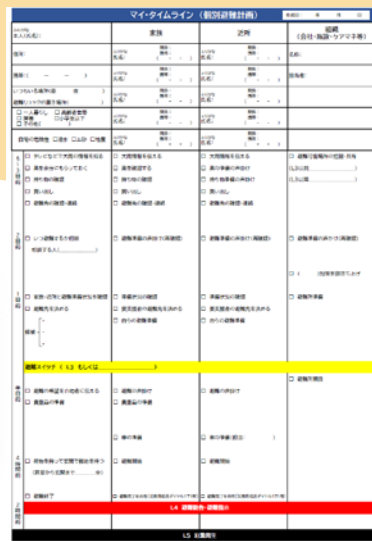
避難行動要支援者名簿、個別計画、地区防災計画それぞれの連携のあり方について整理するべきではないか

- ・ ソフト対策間での連携は必要。しかし、その担い手は地域住民。
- ・ 十分なソフトで人をつなぎ、災害に備えた住まい方を後押しする最低限のハード整備も必要。

自主防災組織が市に申請、市から備蓄物資の提供、



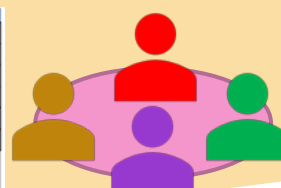
## 要配慮者マイタイムライン (個別避難計画)



箭田地区まちづくり協議会、まび事業者連絡会  
 （児童、障害、介護事業所の集まり）等による  
 支えあい活動により、地区防災計画に着手、

- ① 共同住宅周辺地域における避難ルール（高台避難・共同住宅避難）
  - ② 共同住宅避難の場合の助け合いルール
  - ③ ルールに基づく定期的な訓練計画
  - ④ 平時の利活用・助け合いの関係性構築 等
- について検討。

要支援者を含め小さな単位での行動計画が具体的になるようにする。



ご本人、家族、近所、組織（会社・施設・ケアマネ等）でタイムラインを共有。

作成する関係性をつなぐ  
こと、可視化できにくい  
ご近所とのつながりを文  
書化することにより、関  
係者で共有しておく



コミュニティルームを活用した勉強会  
7月14日の大雨時（土砂災害警戒）には、居住者5名、近隣住民2名が避難



有償ボランティアの会  
「助け隊ありが隊」

※ 口にチェックがつかない場合は、誰が実施するのが決めておくこと

## 【課題①】

避難行動要支援者名簿、個別計画、地区防災計画それぞれの連携のあり方について整理するべきではないか

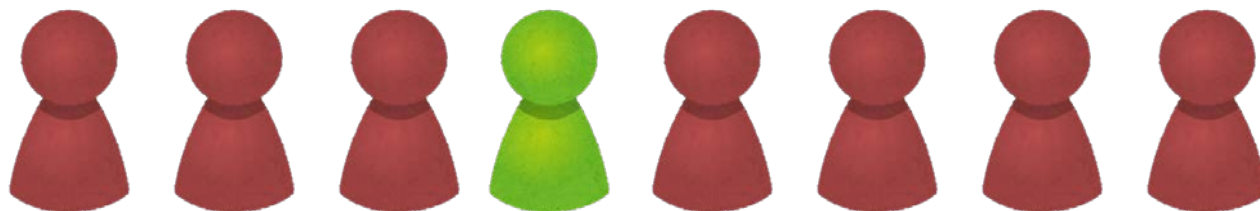
- ➡ 地区防災計画に取り組む目標像として、要配慮者の位置づけの考え方
- “助ける側” と “助けられる側” からの脱却

すべてのひとが **どんなときでも「地域」の** 構成員

避難するとき

避難所を運営するとき

まちをとりもどすとき



役割があると **ひとは生き活きと** 生き続けられる

**多様な選択肢が  
どんなときでも社会に溶け込んでいること**

【課題②】地区防災計画の策定促進に向けて、計画の作成主体である地区住民等を人材やノウハウ面で支援する仕組みについて検討する必要があるのではないか。

- ➡
- 基礎的な知識やノウハウを有する方（例えば防災士）をとにかく増やして活用する（松山市方式）



文字拡大 大 中 小 | 配色変更 A B C | 音声読み上げ | Multilingual | モバイル | サイトマップ

松山市

笑顔広がる人とまち  
幸せ実感都市 まつやま

現在のページ ▶ 松山市ホームページ > 市政情報 > 松山市について > 松山市が全国に誇れる「たから」

### 松山市が全国に誇れる「たから」

松山市が全国に誇れる日本一など、松山の「たから」を紹介します。

#### 日本一の「たから」

##### 防災士の数最多

全国自治体最多の6,047人です。(令和2年3月末時点)  
松山市では自主防災組織の核になる防災リーダーを育成するため、平成17年度から自主防災組織の推薦を条件に、当時全国で初めて資格取得費用を全額公費負担にしました。  
こうした取り組みで地域に**防災士**が誕生し、まちの安全・安心に努めています。

人口当たり 84人に一人が防災士！ 市内全41地区で地区防災計画策定済み

防災士 6,098人（R2年6月末時点） ※全国自治体最多

R2年4月1日現在推計松山市人口 507,399人

※5,000人のコミュニティに60人防災士がいる計算になる

# 地域をつなぐ防災士（松山市の防災士養成）

（令和2年6月末現在）

全国一

全国初

**防災士（H17から）**  
地域のために公的な役割を担うとの  
認識に立ち、自主防災組織の推薦を条  
件に資格取得に必要な経費を全額補助

| 都市名      | 防災士数     |
|----------|----------|
| 松山市（中核市） | 6, 0 9 8 |
| 大分市（中核市） | 3, 5 6 7 |
| 仙台市（政令市） | 2, 8 3 7 |
| 高知市（中核市） | 2, 6 5 4 |
| 横浜市（政令市） | 2, 3 2 1 |

H24～

H25～

自主防災組織

市立小・中学校

市立幼・保育園

民間取得者

自主防災組織の  
推薦

児童・生徒の安全を確保

事業所  
大学生など

1, 9 6 7名

市立小・中学校3 4 4名  
幼・保育園8 3名

2, 2 4 9名

H26～ 郵便局 4 1名

H26～ 児童クラブ 9 2名

H26～ 福祉避難所 1 4 9名

H29～ 災害協定  
事業所 7 0名

R1～ 高校生 1 3名

【参考】 H27～ 大学生防災リーダークラブ  
9 5 6名

平成17年度

令和元年度

1 2 3回 8, 5 6 9人

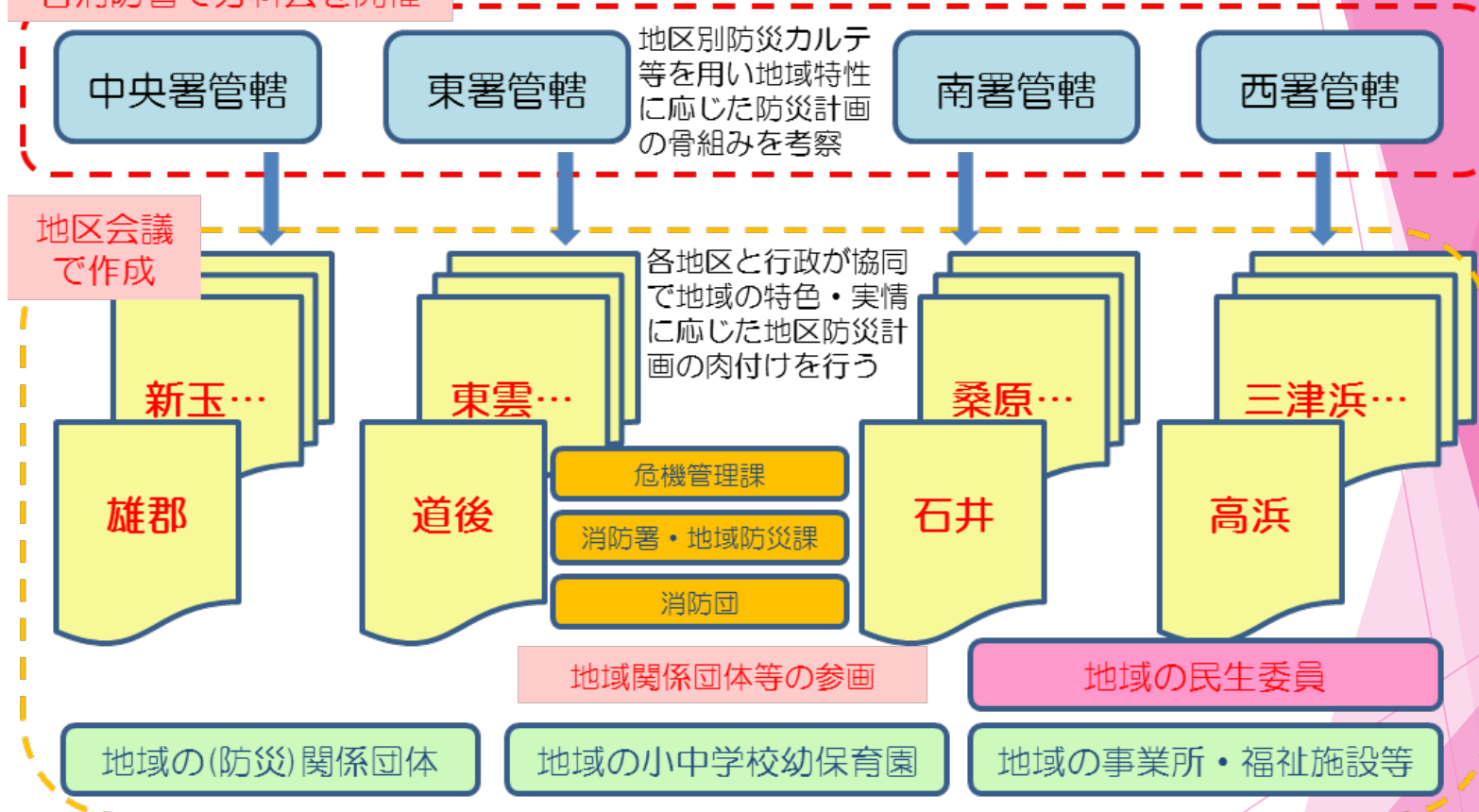
3, 6 8 0回 7 4, 7 7 5人

年間の防災訓練・研修会の回数、参加者が飛躍的に増加！

実施回数 30倍  
参加人数 8.7倍

# 自主防災組織を中心とした地区防災計画の作成 ～地域ぐるみの防災計画によりみんなの命をみんなで守る～

各消防署で分科会を開催



地区防災計画作成の中で、地域の自主防災組織、消防団、女性防火クラブや小中学校、幼保育園、民間企業等が地域ぐるみで一緒に協力して、避難計画、行動計画、避難行動要支援者対策などを考え、地域みんなの命をみんなで守る取組を進めています。

# 松山市自主防災組織ネットワーク会議

41地区連合会から各2名選出  
1名は連合会の代表者  
1名は防災士の代表者

会長

監事2人

事務局3人

副会長

副会長

副会長

副会長

中央署管内  
15地区

東署管内  
10地区

南署管内  
7地区

西署管内  
9地区

代表理事2名

代表理事2名

代表理事2名

代表理事2名

理事27名

理事17名

理事11名

理事15名

消防職員9名

消防職員7名

消防職員6名

消防職員6名

# 【課題②】 地区防災計画の策定促進に向けて、計画の作成主体である地区住民等を人材やノウハウ面で支援する仕組みについて検討する必要があるのではないか。



- 大学等の教育機関が地域に溶け込み活動・支援。



香川大学学生 真備町川辺地区・防災まちあるき



地区防災計画ワークショップ

香川大学・小豆島プロジェクトチーム（演劇2部作 演劇でふる小豆島のカタ）

## トラと呼ばれたサル

道路、恋人、友人や家族の別離など、  
島の多岐にわたる3年生の経験をもとに、  
とあるきっかけで、  
島でやっぴん暮らしをしていくおじさんと出会い、  
彼の恋しい過去を知る。  
島との関係性を慮る節目でもある年に、  
もみじが満ちた夜に決別を遂げる。

【脚本】小豆島プロジェクトチーム（演劇2部作）  
【演出】豊永純子（香川大学 地域連携コーディネーター）  
【制作】柴田悠基（香川大学 地域連携コーディネーター）

2019年8月24日（土）25日（日）  
開演17時（上座時間40分）  
会場：中山農村歌舞伎舞台  
（香川大学小豆島キャンパス内）

全席指定 前座あり [500円] / 後座あり [2,000円] / 特別座あり [1,000円]  
（小豆島町民会館）

香川大学小豆島プロジェクトチーム（演劇2部作）  
【脚本】小豆島プロジェクトチーム（演劇2部作）  
【演出】豊永純子（香川大学 地域連携コーディネーター）  
【制作】柴田悠基（香川大学 地域連携コーディネーター）

2019年8月24日（土）25日（日）  
開演17時（上座時間40分）  
会場：中山農村歌舞伎舞台  
（香川大学小豆島キャンパス内）

全席指定 前座あり [500円] / 後座あり [2,000円] / 特別座あり [1,000円]  
（小豆島町民会館）



瀬戸内国際芸術祭で地域の歴史をテーマ  
に農村歌舞伎を展示  
（小豆島町）



学校防災アドバイザー  
（香川県教育委員会と連携）

## 【課題②】地区防災計画の策定促進に向けて、計画の作成主体である地区住民等を人材やノウハウ面で支援する仕組みについて検討する必要があるのではないか。

➡ **大学等の教育機関が人材を育成し、活躍の場を創出する。**

### 防災士養成講座の開講

- R1年度 学生329名 (学生・一般含)  
一般152名受講  
H21～ 計1,818名 防災士に



### 香川大学防災士クラブ

(防災士資格者対象)

- 現在、学生61名が在籍。
- 地域での防災訓練や被災地支援活動に参加し、学生リーダーとして活躍。



### 学生災害ボランティア

- 平成30年7月豪雨被災地にて、各種ボランティアに従事。現在も継続して支援を行っている。



### 四国防災危機管理プログラム (香川大学・徳島大学合同実施)

- H25年度～ 177名 修了

行政・企業・医療防災・危機管理マネージャー養成コース

行政・企業・医療防災を学ぶ

[香川大学]

地域社会を構成する自治体・企業・医療機関等の地域組織のリスクマネジメント、事業継続計画BCPやMCP策定、住民の安全・安心を守る防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



Brush up Program  
for professional

文部科学省職業実践力育成プログラム  
(BP) に認定

### 創造工学部 防災・危機管理コース (H30新設・学年定員25名)

自然災害などのリスク管理能力に長け、  
危機的状況においてもしなやかに対応できる人材の育成



### 機能別消防団

- 高松市の避難所に指定された2つのキャンパスにおいて、大規模災害時における避難者の受け入れ支援を目指す。

